

令和2年度

第2回柏市社会教育委員会議

会議資料

令和2年12月21日

## 柏市社会教育委員 委員名簿

所属等	職務名	氏名 ※敬称略
柏市立柏第四小学校	校長	いわた くみ 岩田 久美
柏市立柏第二中学校	校長	すぎもと ひであき 杉本 秀彰
柏市子ども会育成連絡協議会	会長	かどい たかし 門井 隆志
多世代交流型コミュニティ実行委員会	代表	つねの まさとし 常野 正紀
柏市PTA連絡協議会	会長	まえかわ よろず 前川 万
柏市ふるさと協議会連合会	会長	ねもと としはる 根本 利治
柏の葉サイエンスエデュケーションラボ	会長	はむら たいが 羽村 太雅
柏市ストップ温暖化サポーター 元我孫子市社会教育指導員		むらた しずえ 村田 静枝
さわやかちば県民プラザ	所長	いわさき まさお 岩崎 雅夫
柏市民生委員児童委員協議会	副会長	いとう かおる 伊藤 薫
開智国際大学	教授	てらもと たえこ 寺本 妙子
東京大学大学院	教授	まきの あつし 牧野 篤
文教大学	准教授	あおやま てつべい 青山 鉄兵
市民公募		ほんだ のりこ 本多 紀子

任期：令和元年6月1日から令和3年5月31日まで

前川，岩崎委員の任期：令和2年6月1日から令和3年5月31日まで

## 柏市教育委員会 出席職員名簿

所 属	職 名	氏 名
生涯学習部	部 長	みやじま こうじ 宮島 浩二
枠生涯学習課 (事務局)	課 長	おきもと まさき 沖本 雅樹
	統括リーダー	わたなべ まさえ 渡邊 雅恵
	副主幹	やまもと さとこ 山本 郷子
	主 任	たかまる とみお 高丸 富雄
	主 事	なかざわ まさみ 中澤 真海
	生涯学習専門 アドバイザー (生涯学習分野)	はえぬき ひろたか 崩拔 博孝
		ば ば ひでき 馬場 秀樹
いわぶち ひろみ 岩渕 弘美		
中央公民館	館 長	やまおか やすひろ 山岡 康宏
図書館	館 長	はしもと けんいちろう 橋本 賢一郎
学校教育部 学校教育課	指導主事	せきね のりかず 関根 典和

## 次 第

- 1 開会
- 2 生涯学習部長あいさつ
- 3 議長あいさつ
- 4 第4次柏市生涯学習推進計画案について
- 5 社会教育委員会議の全体スケジュール
- 6 前回会議の振り返り
- 7 提言骨子案について
- 8 事例紹介
  - (1) 柏市立大津ヶ丘第二小学校
  - (2) しこだ児童センター
- 9 協議事項（グループワーク）

「地域での体験活動をどのようにすると効果的に行えるか」
- 10 事務連絡
- 11 閉会

## 目 次

1	第4次柏市生涯学習推進計画案について	1
2	社会教育委員会議の全体スケジュール	2
3	前回会議の振り返り	3
4	提言骨子案について	4
5	事例紹介	5
6	協議事項	7
	参考（前回のグループワークの結果）	8



# 1 第4次柏市生涯学習推進計画案について

「第4次柏市生涯学習推進計画」の策定を目指し、令和元年度から令和2年度までの2年間を通して、柏市生涯学習推進協議会において議論している計画内容について、ご報告します。

当日配布資料①「第4次柏市生涯学習推進計画案」のとおり

## 2 社会教育委員会議の全体スケジュール

### <令和元年度>

第1回  
(7月31日)

- ・委嘱状交付
- ・議長及び副議長の選出（寺本議長・常野副議長）
- ・グループワーク「今期のテーマ」
- ・生涯学習部主要事務事業概要報告



第2回  
(11月6日)

- ・柏市コミュニティ・スクール報告
- ・グループワーク「子どもに地域への愛着を持たせるためには何が必要か」



第3回  
(2月26日)

- ・活動事例：羽村委員
- ・グループワーク「大人が（親がつながる方法や大人が楽しんで地域活動に参加するにはどのようにしたらよいか）」
- ・生涯学習推進計画策定状況報告
- ・社会教育関係団体補助金交付への意見



### <令和2年度>

第4回  
(8月28日)

- ・生涯学習部主要事務事業概要報告
- ・提言の骨子案について
- ・講話：青山委員
- ・グループワーク「子どもが楽しいと思える経験とはどのようなイベントや活動があるか」



第5回  
(12月21日)

- ・生涯学習推進計画案の説明
- ・提言の骨子案について
- ・実践例について協議



第6回  
(2月)

- ・社会教育関係団体補助金交付への意見
- ・提言（案）の検討



## 3 前回会議の振り返り

### 1 前年度会議の振り返りについて

事務局より今期のテーマについて、修正案を提示。

「地域に愛着を持つ子どもを育むために」

#### 主な意見

- キーワードとして大事にしているのであれば良い。  
「育む」については、提言を組む中で検討していければと思う。

### 2 「子どもの体験にどう関わるか」青山委員 文教大学准教授

子どもが育つ生育環境の変化から、子どもは大人が与えないと体験ができなくなった社会という前提がある中で、体験が教育的であることはある程度やむを得ない。

しかし、一歩目に関わる大人が体験を意識することで、与える体験の中にも体験らしさが残る。

#### 主な意見

- 体験は生涯学び続けるための基礎として大事という位の意味で捉えるべき。
- 子ども自身が探求する力をつけることは「生きる力」にもつながる。
- 大人が心配し過ぎた結果、子どもが窮屈になる面もある。

### 3 「子どもが楽しいと思える経験とはどのようなイベントや活動があるか」

#### 主な意見

- 思い通りにならない体験も必要。
- 子どもの発想で地域の歴史を調べる。
- 柏版キッザニア（柏ならではで、かつ、子どもが主役）。
- 地域の取組を学校にそのまま取り入れるのは難しくても、地域と学校の両方が少しずつお互いを取り入れる。
- 大人がやりたいことを副産物として仕込み、子どもが参加したくなる看板を。

## 4 提言骨子案について

前回までに協議した事項を踏まえ提言の骨子案を作成いたしました。

別紙①「提言骨子案」のとおり

テーマが（仮）になっておりますので、皆様で協議していただければと思います。

子どもたちの健やかな成長のためにできること  
～生きる力を育む体験への関わり～

また、事前に委員の皆様からいただいた、提言骨子案についてのご意見を別紙にまとめました。

当日配布資料②「提言骨子案についての主な意見」のとおり

## 5

## 事例紹介

『柏市立大津ヶ丘第二小学校  
～学校から元気を！地域つながり隊！～』

## 1 概要

子どもが地域社会を知ること、地域社会とのつながりの大切さを感じることができる学習とする。

総合学習の授業時間、45時間で「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した指導を行う。

## 2 教員の想い

他と協働しながら、「自分にできること」を探求することで、自信を持って今後の生活や、学習活動に取り組める姿勢を身に付けさせる。

## 3 活動者

学校：小学6年生（38名）

## 4 活動内容

実施活動	未実施活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まち探検（グループでまちを歩き回る）</li> <li>・地域の方へのインタビュー（飲食店関係者、町内会等）</li> <li>・地域のごみ拾い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方や下級生への活動報告</li> <li>・学校と地域で植栽</li> <li>・ふれあい（料理等を準備まで）</li> </ul>

## 5 活動効果

- ・地域住民から児童への声かけや関わりが増えた
- ・児童の地域への気づき（このおじさんが〇〇だったんだ等）

## 6 地域の反応

- ・活動前は近隣住民から「吹奏楽がうるさい」と苦情があったが、活動後は「吹奏楽が上手くなってきてる」とお褒めを頂いた。
- ・活動中の生徒に「ありがとう」と感謝の言葉を頂いた。

## 7 地域から子ども達への思い

- ・元気に過ごしてもらいたい
- ・親御さんに感謝してほしい
- ・地域をきれいにしてほしい

## 8 学校の展開

- ・地域の方に学校の場所や施設を使用してほしい。
- ・児童は思っているよりも地域の事を知っているため、もっと自由度を高めたい。
- ・地域の方に協力を依頼する際に、窓口になる人がいない。

# 『しこだ児童センター ～夏だ！おばけだ！！～』

## 1 概要

夏休みに児童センターで行われているおばけ屋敷。実行委員形式で異年齢との交流を図り、子ども達のやりたいことを実現させている事業。

## 2 活動者

小学校2年生以上（ボランティアの中学生や高校生，大人を含む）  
当日の参加者：200人以上

## 3 活動内容

実行委員形式で行っており，全3回程度活動を行っている。

児童センターの役割	実行委員会の役割
<ul style="list-style-type: none"> <li>●実行委員募集（ポスターの掲示） 町会，近隣の学校，近隣センター</li> <li>●参加者が楽しく関わられるよう見守りと声かけをする（アイスブレイクやニックネーム）</li> <li>●安全第一に考えて行うことが大切</li> <li>●備品で足りないものは児童に持って来てもらう（衣装や懐中電灯）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●委員長，副委員長を中心に内容について話し合い 企画・運営・必要なものの作成について考える</li> <li>●担当決め ポスターの作成，フォトスポット，装飾，工作</li> <li>●当日の担当決め 受付，説明，おばけ役など</li> </ul>

## 4 子どもの声

- ・楽しかったので，また来年もやりたい。
- ・当日の参加者が来年は実行委員として参加したい。
- ・人前で話すことは苦手だったが，自然と自分から声をかけられるようになった。
- ・小さい子と一緒に準備をするのは大変だと思ったが，とても可愛かった。

## 5 スタッフの声

- ・子どもたちが一生懸命やるところを見て元気をもらっている。
- ・子どもたちのやりたいことを出し合い，それをできるだけ実現するようにサポートしている。
- ・困っている低学年の子に対して，サポートする高学年の子の姿が見られ，成長を感じた。
- ・よく児童センターを利用する子は，普段の姿とは違う一面が見られる。

# 6 協議事項

## 1 グループワークの実施

### 今回の議題

地域での体験活動をどのようにすると効果的に行えるか

各グループごとに事例紹介した取組みについて、良い点、工夫できる点、今後のヒント、地域での活動や地域と学校の連携・協働に繋がる部分について協議してください。

A 班	B 班
大津ヶ丘第二小学校	しこだ児童センター
①子どもが地域を知る為に外に出ていく取組。 ②子ども自身による気づきが多く、地域の大人と関わる機会になる。 ③教科横断的な学びであり、学校のカリキュラムに絡めることで安定性がある。	①子どもが実行委員として企画・準備・実施する取組。 ②大人はひたすら黒子の役割を担う。 ③小学生～高校生が役割を担い、工夫して面白くする。（異年齢交流）

## 2 考える視点

- ・ 提言①大人同士がつながろう、大人自身が楽しもう
- ・ 提言②子どもを主役にしよう

## 3 グループワークの方法

- ・ 議題について話し合うとともに、内容を付箋に記入してください。
- ・ 40分協議した後、話し合った内容の発表をお願いいたします。（班ごとに発表者を決めてください。）
- ・ 発表後、質疑の時間を2分程度とります。

# 参考

## 1 令和2年度第1回社会教育委員会議 (R2/8/28) グループワークの結果



